

主義

紙は本社の私にあら... 其利用を快諾し... 本紙は絶對不可侵の權威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を採らず磐城地方唯一の信條

磐城之實業

發行日五廿日十(二)月毎... 印刷所 磐城印刷局... 電話 五三三番

更生の意圖

大和田與平

自己革命... 僕生をこの世に享けて茲に四十年決して斯くして僕は中途或は筆を物質論者として懷疑の短とは云はぬ、蜂游の一生投じて生活様式を替へし一服を投じて文章經國に一生を比すれば遙かに永いこととあつたが此の數年間には始終するものではあるまい

原案支持に困難な福島縣會の前途

此豫算面を覗いては知事も議員も大苦難佛の腕でカナワンか

政友會内閣にして小政黨と御大に内々ではあつたが恐豫想せる所であるなつた政友會を味方とする一伺ひを立てたところ... 本縣伊東知事は今や開會さ御大は深甚の同情を以て『選實後實に最初の通常選挙あり且つ又明年度の選挙あり』と云ふ

石城民政派の三人男

組上に載せて物申さんかな

由來絶對政友會の地盤とし自他共に許した石城郡定員六名の縣議選出地から其の半数の當選者としての榮冠を得た野崎、若松、若松の三人男

實世間解剖臺

醫者素破の記(一)

醫者曰く『憐れなる者よ汝が診診と云ふニ醫者は隨所の名は患者なり汝の生殺與に鎮座ましまして居るが被奪の權を握る者は我なり而害はそれ程でもなからふ免して汝快方に向ふと雖も余に角病人を扱ふとは云へおの加減によりて全快は當客に頭を下げさせるのは世分延期する可きなり』

小額生業資金

千六百萬圓... 一國八厘と見て總額一億六萬八千圓... 此金で大型機關車なら十五輛

現今社會の進歩と共に此處に民衆の小さな金融機關として當會社が創立致しました左記營業種目に就て業務の範圍を御承知願ひ充分に當社の内容及組織を御調査になりまして是非御利用下さい

營業種目	短期日掛貸付	割合一覽表
金	額 毎日掛金額 期間 月數	
一	金拾五圓也 一五貳拾五圓掛 六十日間 二ヶ月間	
一	金參拾圓也 一五五拾圓掛 六十日間 二ヶ月間	
一	金四拾五圓也 一五七拾五圓掛 六十日間 二ヶ月間	
一	金四拾五圓也 一五五拾圓掛 九十日間 三ヶ月間	

◆月掛貸付小口短期貸付
◆有價證券の賣買及仲介
◆不動産の賣買仲介
◆貸地貸家の賃貸料取扱
◆債權買買及債務の相談

平町字南町五十番地
磐城殖産合同株式會社
(電話架設中に付き當分呼出三一四番を御利用下さい)

の明月となり... 十一月二十七日には午後四時用は七月二十日に入ります

延其不可前記... 延其不可前記に依りて法廷に記入捺印したるもので彼ものがあるやうである

磐城之實業社 (平町古銀治町)

肅條たる秋日にも似た 石城財界最近の傾勢!

完全なる金融法なくんば 到底夜のあけぬ状態

一般商人に

春光の閃きが何時来るやら
と静寂にして暗黒とでも形
容すべく宛然肅條たる秋日
にも似た

も関連して浮び上る術のな
いも寧ろ當然といはねばな
らぬ斯の如く商品は不買に
金融難は依然たるものであ
るから益々難澁を覚えるし
中小商人の悲鳴を擧げ
は本店處在の一地方
のみに集中し従前各地
方に於て大銀行が棄て、願
みなかつた中小業者への金
融を一手に引受てゐた地方
小銀行が無くなる時はさな
かだに金融難に陥つてゐる
中小業者の金融を杜
絶する結果となり而して
絶望の結果となり而して
合同された銀行が其地方に
於ける支店となる場
合本店の營業政策
に依つて業務を
爲め如何にして
も従前の如き地方
小銀行としての機
能を發揮し得ず資
金取收の機關に變する傾向
あつて之が爲め資金の偏在
は益々助成されるおそれあ
るが故に商工行政上の見地
より我國現下の金融状態は
依然と地方小銀行の存在を
必要とするもので天下りの
極端なる人為的金融法を
は産業振興を主眼
としての一機關に
過ぎぬ銀行は合同
するが當然で、平町の如き
銀行主腦部の

光景を呈し

居る石城の財界は概観し
て石炭界の稍々生氣を認め
てきた矢先に例の磐城炭礦
糧食部問題を惹起した負債
は平町商人の吉田、房、服、
五萬釜、屋敷、三萬馬、目、
外三四名の米穀商の十數萬
圓を筆頭に四十餘萬圓
の賣掛代金が

今後商取引

を絶縁しての五ヶ年々賦と
云ふ天下無類の横暴
極まる契約にて一段落を
付けたと云ふに至つては愈
々商品界も極度の困散振り
を示すことは需給關係
から然らしむるが筋書で一
部商人のみならず是れが

人為的金融は 中小業者の金融を 杜絶するものである

大藏省の銀行合同總案に本
縣では縣下における銀行合
同を促進するため去る二十
四日午後二時から福島銀行
集會所において合同促進委
員一同

有望なる久之濱 大謀網漁場の株式組織

此の計数は實に事業の堅實味
深十六尋を算す此處を
基點として沖合へ四百
間の袖網を敷設し其の
東端水深二十尋の處に
本網を敷設し南東方沖

其の情實關係

家計調査に 現はれた數學

結果家計簿記入繼續したる生活者より労働者の方が多
世帯数は實に六千五百六十六の世帯である、次に兩者の支
全収入平均百十四圓内全
家族の勤勞收入九十八圓内
全収入の八割六分其他財産
収入即ち勤勞以外の収入十
六圓餘で勤勞以外の収入十
四圓餘内全家族の勤勞收
入八十六圓餘で全収入の九
割一分を示してゐる又勤勞
以外の収入八圓餘で九分は
多數の中より選定して昨年
滿一ヶ年の間本縣を初め全
國十九縣に亘り家計調査の
る勤勞收入の割合は給料生
活費と見るときは給料生

項目	金額
給料生活者	三、五〇〇
労働生活者	三、〇〇〇
衣服費	二、〇〇〇
食料費	一、五〇〇
住居費	一、〇〇〇
社會生活費	一、〇〇〇
文化費	一、〇〇〇
計	二四、三〇〇

鐵槌を下せ!! 人道の敵

義憤に燃ゆる大衆の輿論を聴け!

無智なる「弱者」兇暴な藝妓屋組合の總寄附行為!
骨をシヤブル兇暴な藝妓屋組合の總寄附行為!
無智に乘じし人道の法律の基準を無視して飽くなき暴虐を公々然
と隠蔽せんとしつゝある

少壯某辯護士談

矛盾撞着せる現存制度の賜を側から採取掠奪して
下に於ては社會の裏面に種々其れを自分の名義で寄附し
々々多量非人道的社會共同の無智な不幸に泣く哀れ
生活の精神に反する不祥事な女性等の涙と汗の塊を奪
件が存在するの止むを得ず取して主人と言ふ美名のも
ない現象であるがこれ程露とに専横極まる手段に出づ
骨な悪辣な事件は珍らしいに至つては直に正義の劔
所謂慈善者屋など稱する聲が許さぬ不具滅天の不道
業者は慈善者を使役して自腹徳漢である
在來の彼等の弱者採取手
肥やすを職業としてゐる
此處に組合と慈善との關係は非常に陰險であり巧妙
係は詰り資本主義制度の下を極めたもので巧みに法網
に於ける資本家と労働者とをくぐり世人の目を欺瞞し
の關係を小にしたたかなもので暗から暗へと彼等の悪手
だと思ふ即ち資本家が政府段を振つてゐたが資本主義
に莫大な寄附金を出して何が發達するに從つて此等の
位何等或は何等と云ふ様な手段方法が露骨化しつゝあ
るのを頂戴して大きな顔をする事は明白な事實である此
してある様に組合なるもの弱者の叫びの如き其の一
年に何千圓と云ふ寄附し例と見なければならぬ
大いに面目を満天下に施
つゝあるが其の實は資本不道徳であつても此れが改
家にあつて労働者の血と汗を搾り取つて努力しな(欄外)

忍苦の生活記録

煙花狹斜の巷にあつて身に
錦繡をまとひ華やかな燈の下
に誇りかな微笑を續ける藝
妓の生活も一度その裏面史
を綴れば世人の想像に
及ばぬ餘りにも悲劇な
ものがあるに
ある出づるにも入るにも
輕い響きを立て、豪奢な生
活を續けるもの、ある聖代
に紅燈のゆらぐ陰に涙する
女の運命は何んといふ傷ま
しきものである

平南町一帯の土地埋立に は四丁目工業商會へ何卒 御用命下さい。

色魔代診

社共には現在營業休止の貧
血病の重態で回生の見込が
怪しい始末である處へ今度
第一商業の拂込が先の第一
平南町町の某醫院のホリ

行服部宗郎の五兵衛に第七... 銀行主腦部の...

合名義のもとに何千圓と言ふに... 銀行主腦部の...

コサツク四年筆本舖... 天地堂... 平南町一帯の土地埋立に...

有望なる久之濱

大謀網漁場の株式組織

株式組織を以て計畫された... 久之濱の漁業は其場所...

深十六等を算す此處を... 久之濱港は拾数年...

起業目論見... 全額拂込總資本...

今尚進捗せぬ... 問題の片濱軌道... 郡山博覽會...

現代青年には斯の如き思想所有者多數なりや

社會的使命

凡て社會は一刻も停止して... 現代青年には斯の如き...

現代の社會に... 資本家階級に... 一方に少數の...

多くの價値を... 未來に希望を... 古來人類社會...

其の第一線に... 郡山博覽會... 郡山博覽會...

色魔代診

婦人患者ご用心

社共には現在營業休止の食... 婦人患者ご用心...

平南町一帯の土地埋立に... 郡山博覽會...

郡山博覽會... 郡山博覽會...

郡山博覽會... 郡山博覽會...

